

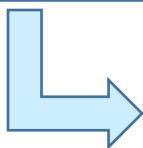
福井大会 分科会 提案発表を振り返って Part 2

こんにちは、全事研福井大会研究部です。今回は前回に引き続き8月に行われました全事研福井大会分科会でのグループワークや助言者の加藤 崇英教授（茨城大学大学院）の御助言などについてお伝えします。

Ⅲ グループワーク

具体的な学校の課題「読書活動を活性化させるには」「清掃活動を活性化させるには」について、事務職員がどうかかわっていけるかということ「意識」や「仕組みづくり」の観点から意見交換し、より良い学校組織づくりにおけるマネジメントについて考えを深めました。

グループワークで作成したワークシートはこちら（令和6年3月31日まで閲覧できます。）



Ⅳ 加藤先生の御助言

助言者（加藤 崇英教授）より

今の学校は、新しい学習指導要領の下、大きく変化しています。管理職や一般の教員が考えているところに事務職員も合流し、管理職や他の教職員とは違う事務職員の視点から、変化に気づき、敏感になれると良いでしょう。こうした変化のなかであって、学校では改善に向けて様々な検討がなされていきます。検討していくなかで、事務職員の専門性にかかわる問題が出てくるので、積極的にかかわってください。また学校内に限らず、外部の保護者、地域といった多様な人とかかわり合ってください。

学校事務の仕事も行政職で、基本は官僚組織です。官僚組織は、属人的な対応の差異を避けるために、ある職に対する標準やその標準を維持する制度を通じて安定を提供しますが、同時に、決められたことしかやらないなどの組織の硬直化といった「逆機能」をひきおこすこともあります。教育活動への「思い」をもって学校内外のいろんな方とかかわり合うことが、その「逆機能」を防ぐことにもつながります。そのためには事務職員が自己のコミュニケーション力を高める必要があります。本日の演習も事務職員の力量向上につながると思いますし、こうした活動を積み重ねていくことが、協働組織、協働文化を作っていくことにつながるのではないのでしょうか。

V 参加者の声

（学校で）事務職員がこんな提案して良いのか？と自問自答したことがあります。提案のお言葉をかりるなら「職の壁」でしょうか。変えることを恐れずにいろいろな課題に対して企画立案行動をしていきたいと思ひますし、地元の若手事務職員にも、伝えていきたいと思ひます。



1学期末に学校施設改善の生徒アンケートを行いました。その中から生徒昇降口の改善（リノベーション）を思いついたところです。改善にあたって、今回学んだ「意識」と「仕組み」を取り入れ、生徒や学校外の方（卒業生、地域の方）も巻き込んで、共同実施のメンバーと取り組んでみたいと強く感じたところです。今回の報告ありがとうございました。

他県や他地域の話が聞けて楽しかったです。私はまだ2年目ですが、事務職員としてできることの視野が広がったように思ひます。

チャレンジしたいことはたくさんあるのですが、壁に阻まれていた事がよく見えました。壁を乗り越えて改善していけるよう、覚悟と勇気をもって一步を踏み出したいと思ひます。

とても前向きになれる分科会発表でした。「意識」⇔「仕組み」を学校の教職員間で行ったり来たりすることがベストな答えを出すために必要だなと感じました。そして、そのことが自然にできる、自然に起きている、という環境や雰囲気づくりも大切だと感じました。自分にできることから「意識の壁」を超えて、挑戦していきたいと思ひます！本当にありがとうございました。



御参加いただいた皆様から、前向きな御意見や御感想を多数お寄せいただきました。ぜひ皆さんも、学校の仕組みをより良いものにしていくための一步を踏み出してみましよう！